

防災 メモ 全国瞬時警報システム (J-ALERT)



市では今年4月から全国瞬時警報システム(通称J-ALERT)の運用を開始しています。このシステムは、すぐに対処が必要な有事関係情報や気象庁からの地震・津波関係情報が人工衛星を介して送信され、市の防災行政無線を自動的に起動して警報を放送するものです。

これらの情報が放送されたときは、テレビやラジオをつけて情報に注意し、身の安全を確保して落ち着いて行動するようにしましょう。

◎放送される情報

地震・津波情報	緊急地震速報(震度5弱以上)	チャイム音「緊急地震速報。大地震(おおじしん)です。大地震です」
	大津波警報 3 桁以上が予想されるとき	消防サイレン 3 秒吹鳴・2 秒休止 × 3 回「大津波警報が発表されました。海岸付近の方は、高台に避難してください」
	津波警報 2 桁以上が予想されるとき	消防サイレン 5 秒吹鳴・6 秒休止 × 3 回「津波警報が発表されました。海岸付近の方は、高台に避難してください」
有事関係情報	弾道ミサイル情報	「ミサイル発射情報。ミサイル発射情報。当地域に着弾する可能性があります。屋内に避難しテレビ・ラジオをつけてください」
	航空攻撃情報	「航空攻撃情報。航空攻撃の可能性があります。屋内に避難し、テレビ・ラジオをつけてください」
	ゲリラ・特殊部隊攻撃情報	「ゲリラ攻撃情報。ゲリラ攻撃の可能性があります。屋内に避難しテレビ・ラジオをつけてください」
	大規模テロ情報	「大規模テロ情報。大規模テロの危険が及ぶ可能性があります。屋内に避難し、テレビ・ラジオをつけてください」
	緊急に住民に伝達することが必要な国民保護に関する情報	即時音声合成方式・事前音声書換方式による音声メッセージ(事態に応じた柔軟な音声)

※これらの情報は緊急情報であるため24時間いつでも自動的に放送されます。
 ※緊急地震速報は地震による強い揺れを事前にお知らせしますが、震源が近いときや直下型地震の場合、速報が間に合わないことがあります。
 ※場合により誤報が発信される可能性もありますがその際はキャンセル放送(訂正放送)が放送されます。
 ※緊急地震速報の詳細については、気象庁ホームページをご覧ください。

問合せ 総務課危機管理対策係 72-1111 内線214



▲全国大会で堂々と操法を披露する隊員。



▲大会前日には東京枕崎会の主催で壮行会が行われました。

の姿がありました。当初から指導に当たっている消防署の指導員が「上位を狙えるレベルまでできている」と言うように、練習の成果は隊員の動きに確実に表れていました。

いざ横浜へ

大会会場のある横浜市に前日に到着。会場で機材器具のチェックを終え、近くのグラウンドで最終調整を行い本番に備えました。夜は東京枕崎会の主催で壮行会が行われ、たくさんの方々からの温かい激励の言葉をもらいました。そしていよいよ大会当日を迎えました。曇天で風も強く



▲ホース巻きなどサポートをする隊員

この経験を
枕崎の安心・安全のために

後積田尚子隊長は大会後の反省会で「貴重な経験をさせていただき感謝している。今回の出場で私たちが学んだことを市民の安心・安全のために尽力することで恩返ししていきたい」と話しています。

この1年8か月、汗と涙を流しながら練習に励んできた12人の絆と、培った技術が、今後の活動で生かされること

そ60秒で標的を射止めると、会場は大きな拍手に包まれました。



女性消防隊 全国大会 挑戦の記録

ゼロからのスタート

本県では、隔年で開催される同大会に消防協会の各支部

この操法は、3本のホースをつなぎ、ポンプから約60前方の火点を横した二つの標的を射止めるまでのタイムと、正確性や協調性といった規律との合計点で競われます。

が持ち回りで県代表として出場しています。今回は川辺支部の順番で、その中でも本市の隊が出場することになりました。しかし、本市には女性消防隊がありませんでした。そこで白羽の矢が立ったのが社会人バレーボールクラブ『いーよクラブ』でした。同クラブは県民体育大会に数多く出場する本市を代表するバレーボールクラブです。

スポーツ万能な隊員12人ですが、初めてさわる消火ホースや筒先、今までヘルメットを被ったことがないという隊員もおり、まさにゼロからの

第20回全国女性消防操法大会が10月19日、横浜市で開催され、枕崎市女性消防隊が鹿児島県代表として出場しました。今回、昨年2月に結成され、全国制覇を合言葉に練習を積んできた同隊の挑戦の記録を紹介します。



- ◎後列右から
板敷和代さん 山下祐美子さん
後積田尚子さん 瀬戸口美恵さん
松崎裕美さん 迫田智子さん
城森泰代さん 後積田尚子さん
大工園祥子さん 後藤恵美子さん
豊留紗耶佳さん
- ◎囲み 生駒優子さん

スタートでした。

また、それぞれが仕事や家庭を持つ中、練習時間は夜間に限られていました。結成当初は回れ右や敬礼などの規律から始まり、ホースの伸ばし方や器具の取り扱いなど、繰り返し練習することで徐々に体に染み込ませていきました。大会が1か月後に迫った9月になると、練習会場の水産加工組合駐車場では、消防自動車へのヘッドライトの明かりを頼りに懸命に練習する隊員